

松伏町農業集落排水施設最適整備構想【概要版】

①松伏町の農業集落排水施設の状況

松伏町の農業集落排水施設は、平成10年度に国庫補助事業である「農業集落排水統合補助事業」で魚沼堤内地区の整備を実施し、農村地域の生活インフラ施設として、無くてはならない施設となっております。

しかしながら、農業集落排水施設は平成16年6月の供用開始から21年が経過し、施設の機器などの耐用年数が過ぎていることから、計画的な更新が必要になってきております。

また、今後の農業集落排水施設の運営をしていくにあたって、人口減少に伴う収入（使用料金）の減少と施設の更新のための財源の確保等、施設を維持していくための運営費用をどのように工面していくことが課題となっております。

今後、老朽化が進んだ施設の費用を抑え、どの時期に施設更新を実施するかが課題であります。

②最適整備構想とは

国では、インフラ老朽化対策として、「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、各施設の管理者がインフラ長寿命化計画（行動計画）・個別施設ごとの長寿命化計画（個別施設計画）を策定し、機能診断調査等を実施したうえで適切な措置を講じることが求められており、そのストックマネジメントの手法を使って取りまとめたものが本構想になります。

③農業集落排水施設の状況（機能診断調査）

令和7年度に機能診断調査を実施し、処理施設、管路施設等の施設状態評価を診断しました。



管路施設（マンホール蓋の劣化・S-2）



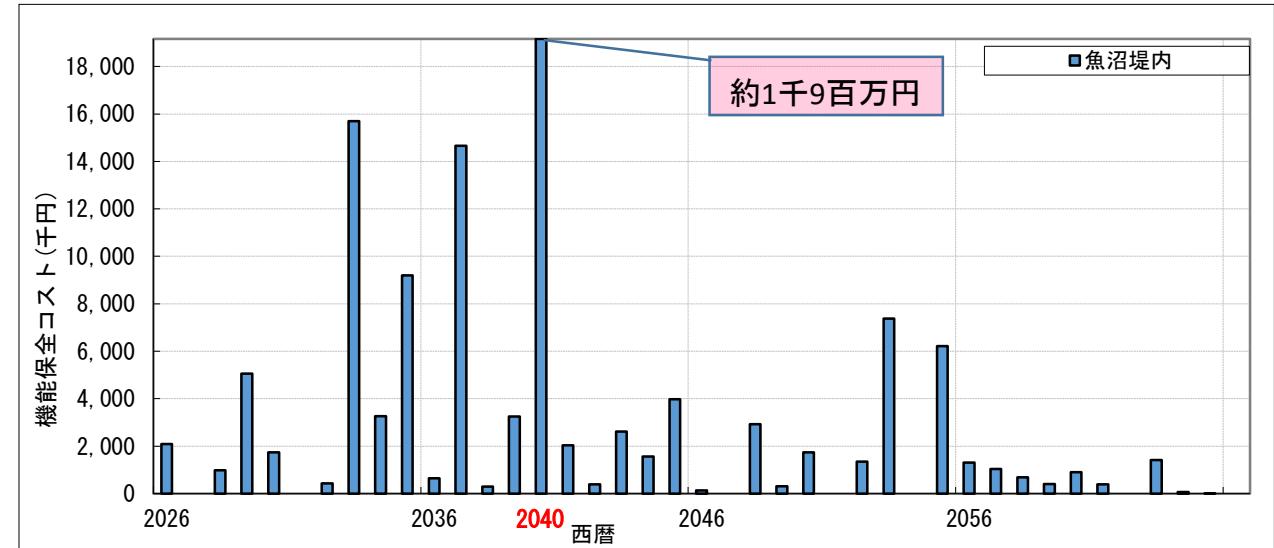
処理施設（機械設備の劣化・S-2）

④機能保全コスト算定

機能診断調査結果を基に、40年間分（2026年～2065年）機能保全コストを算定します。

なお、機能保全コストを同期化、平準化を行い、コストの低減を図ります。

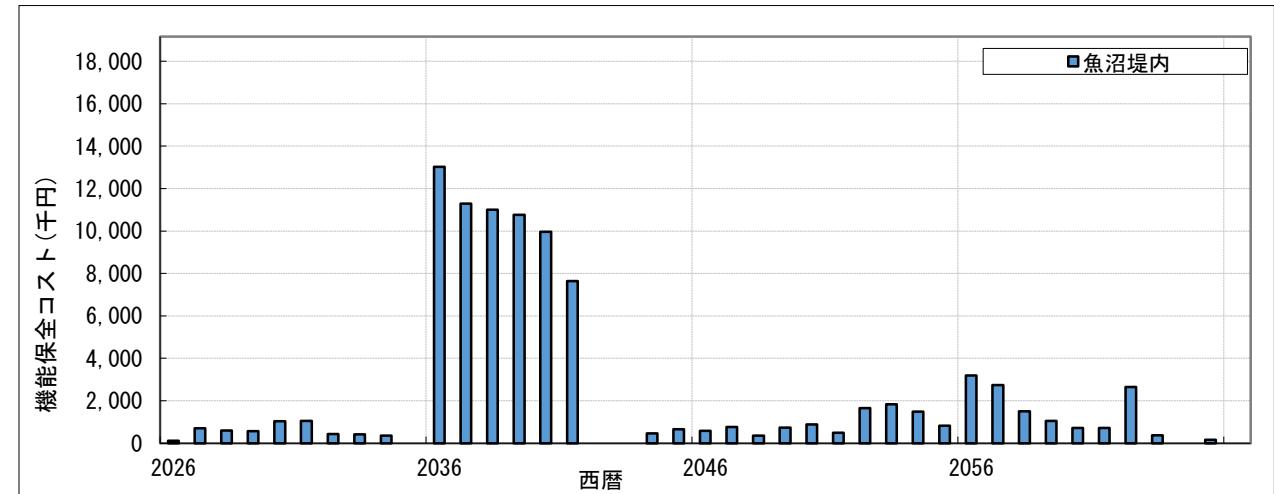
同期化・平準化前（2026～2065年）



処理区の40年間総コスト：1.13億円



同期化・平準化後（2025～2065年）



処理区の40年間総コスト：9千2百万円
（2千百万円の費用まで圧縮）

**機能保全コスト
約2千百万円の低減（▲18.6%）**

農業集落排水施設は、老朽化が進んでいるものの大規模改修が必要な緊急性のある施設はないことから、定期的な診断を実施し今後も施設を継続します。
また、再編計画を検討した場合、松伏町公共下水道に接続するには圧送距離が3,000mと長いことと、河川の横断（中川）が必要になり建設費が掛かってしまうことにより、経済的な効果も見込めないことから、松伏町公共下水道接続の実現性は低いものと推測される。